

議 事 録

1	会議名	富士見市基本構想審議会第6回会議
2	開催日時	平成22年3月19日（金）13時30分から16時50分
3	出席者名	委員：新井義明委員、市川正三委員、市川浩委員、伊藤悦子委員、上田威委員、小山健次郎委員、渋谷義衛委員、清水實委員、田中洋子委員、根岸由紀子委員、柳田政男委員 市側：斉藤総合政策部長、斉藤政策財務課長、政策財務課（事務局） 欠席：大久保義海委員
4	傍聴者	1名
5	次第	1. 開会 2. あいさつ 3. 協議事項：第4次基本構想の取組実績と今後の課題 （1）第4章 心豊かな文化を育てるまち （2）第6章 市民と行政が共につくるまち 4. 閉会
6	決定事項等	・ 「第4章 心豊かな文化を育てるまち」及び「第6章 市民と行政が共につくるまち」について、大柱ごとに主な課題を議論した。
7 議事内容		
		1. 開会
		2. あいさつ
渋谷会長		<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の会議では、前回に引き続き、第4章の「心豊かな文化を育てるまち」に加え、第6章の「市民と行政が共につくるまち」について、ご討議いただきたく。 ・ 課題の整理は本日をもって終了したいと考えているので、ご協力の程よろしくお願いしたい。
		3. 協議事項
渋谷会長		<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回までに協議した箇所を追加意見等あるか。（意見なし） ・ 先ずは事務局から第4章を全部一括で説明してもらい、その後、順次ご議論をいただく。
事務局		「第4章 心豊かな文化を育てるまち」の内容説明
		<人権の尊重>
渋谷会長		<ul style="list-style-type: none"> ・ いわゆる教育文化関係について、一括して説明をしてもらったが、これから1つずつ皆さんにご議論いただく。 ・ 「人権の尊重」について、差別はいつの時代でもあってはいけないものである。引き続き、総合的な推進体制を基に教育・啓発を推進していかなければ

委員	<p>ればいけないと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権と少し離れるかもしれないが、現在、少子化の影響もあり、子供の些細なことに親が口を出し、親自身が被害者意識を持ち、学校で先生を乗り越え、他の子供に迫ることが実際に起きていると聞く。 ・ 親たちが自分の子供ばかりをかばい、先生を乗り越え、親同士がもめてしまうこともある。親同士が自由に話せる親のためのサロンのようなものをつくるなど、何か良い方法や具体的な例がないものか。
渋谷会長 委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言わば親に対する教育ということか。 ・ そうだ。親育てができる良い方法はないだろうか。 ・ 現在、子供の些細なトラブルに対し、親が必要以上に敏感になり、その子供が誰なのかを追及し、自宅にまで乗り込むといったことが普通に行われる時代になりつつある。 ・ 新しい保育指針の施行から21年が経過しているが、今は親を教育しなければ、子供が育たないということになっている。 ・ 現在の政権は、子供は社会全体で育てると主張しているが、子供を育てる親、社会全体をどうするかを考えなければいけない時代になっている。こうした時代の変化を踏まえ、組織的な対応や特別な手立てを考えざるを得ないのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者に関してはサロンなど色々なものがあるが、若い母親たちがコミュニケーションを図る場は少ないと思う。何か良い方法はないだろうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の親は、仕事など様々事情はあるが、PTAにもなかなか参加してくれない。残念ながら、口は出すが協力はできないという状態になってしまっている。多分そのような場を設けても参加しないのではと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分は子供の頃、教師に叱られ、今度は父親に叱られるという時代に育ったので、学校には世話を掛けてはいけないという意識が強かった。先生に叱られるよりも、父親に叱られる方がはるかに怖かった。そのような時代に育った者と今の時代の人とは考え方が違う。 ・ このように今の教育現場は、自分達が育った頃とは全く異なり、難しい問題が沢山ある。問題が難し過ぎて、直ぐに答えは出ないのではないか。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時代が変わり、子供と教師も友達感覚になっているため、ややもすると親もそこに加わって、子供を飛び越えてしまうことがあるのではないか。このような状況の中で、どういう形の取り組みが良いのかというのは、難しい問題である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供が親に対し、誰かにいじめられたと言うと、親は自分の味方になってくれるので、かなり尾ひれをつけて話す。そして、親は、自分の子を中心に見てしまうので、周りを見る余裕がない。親同士が気づき合える、話し合う場所がないものかと思う。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確かに現在、親に対する子育て教育は大切である。現実的にどんな形で親たちに手を差し伸べることができるのか、今後も引き続き、事務局に研究してもらいたい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> 以前、精神障害の子供の施設を木造にしたら非常に良い結果が出たという話をしたら、小学校低学年だけ木造にしてみようかという話になっている。その理由は、木は人の心を穏やかにする、木の中にいると、気が落ち着くということらしい。 昔、我々が通っていた学校はみな木造だった。今の教室に行ってみると、何か冷たい感じがする。また、我々の時代は、机の上を彫ったり、暇をつぶすものが大分あったが、今の子はそういうものがない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 練馬区では、7～8年前からモデル校において、廊下からドアまでを全て木造にすることに取り組んでいる。とても評判は良いようだ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 自分は保育所で役員の手伝いをしたことがあり、その中で話を聞いたのだが、要は親に余裕がない。おそらく年輩の方からしたら、この程度で余裕がないのかと思われるかもしれないが、現実的にそのような状況にある。 結局余裕がないから、地域の活動にはとても参加できない、どんどん閉じこもってしまう。このような状況に対し、行政が手を差し伸べられることがあるのかどうか分からないが、そういう環境にあるということ。20～40代の親たちに精神的な余裕がないことを前提にした上で、何かを考えていく必要があると感じた。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> 色々と問題が多く難しい課題だが、「人権の尊重」に関しては今後、親に対する教育をどのようにしていくのかということの研究課題として盛り込み、事務局の方でも少し研究してもらおうという形にしたいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 富士見市では、どのような形で同和教育を行っているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 管理職に対する研修を実施している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 富士見市で育った子供たちが将来、どのような所でどんな仕事をするのか、どんな環境に身を置くことになるのか分からないので、同和問題に無関心であっては困るという気持ちがあり、話をさせてもらった。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> それでは「人権の尊重」については、このような課題にしたいと思うが、よろしいか。(意見なし)
渋谷会長	<p><生涯学習体制の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> 「生涯学習推進体制の充実」では、4つの課題を挙げている。交流センターや公民館など、ある程度、生涯学習を推進するための場所を提供することと、地域で連携して取り組んでもらうことが、今後の課題なのかと思うが、このような課題で良いか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 個人的な感想だが、市民人材バンクという名前を市民に馴染みのある名称に変更した方が良いのではないかと思う。また、人材バンクの利用件数が増加と書いてあるが、実際にそんなに多くはないと感じている。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> 人材バンクという名称は、国などから下りてきて決まった名称なのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 人材バンクという名称は任意であり、新たに親しみのある名称に変えるのは問題ないと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 課題としては良いと思うが、ここでは単に支援の強化という内容になっ

委員	<p>ているので、やはり第2次世代の人材養成なども盛り込んだ方が、より具体的な内容になる気がする。人を養成する、人がいきいきと活性化していけるような内容が入った方が良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先ほど話があったような親同士の揉め事があった際、「こうした方が良い」と両者をなだめたり、仲裁することができる人が人材バンクにも必要ではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 自宅から生涯学習施設へ通うための交通アクセスの確保も課題である。また、先程の人権問題ではないのだが、同じ地域の同じ学校の人たちが話合っていたのでは、多分煮詰まってしまう。市内には元学校の教師も沢山いるので、その方たちに人材バンクに登録してもらってはどうか。 同じ所では煮詰まるという意味で、現在、川越市では「川越子ども大学」というものをつくっている。大学の教師や誰かを呼んで勉強する大学という意味だが、そこには色々な学校の子供達がいる。そうすると、親も色々な学校に通う親と話しが出来る。今後は、学校の枠を越えた催し物も沢山開催した方が良くと思う。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> 名称の問題や養成という言葉など、具体的な問題については事務局の方でもう1度整理してもらって、今後の課題としていきたいと思うがよろしいか。(意見なし)
渋谷会長	<p><学校教育の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域との連携や県の教育目標と同じようなことをやっていくことが挙げられているが、この課題で良いかどうか御議論いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 目標に「個性と創造性を伸ばす」とあるが、具体的にはどういうことをイメージしているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画では総合学習などを想定している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 自分は、創造性を最も育むのは子供同士の遊びだと思っている。遊びは、色々な創造性を満たす一番有力な方法と思っている。昔の子供は、遊びの中で色々な工夫をした。色々な本を読んでも、創造性を伸ばすには、大人が入らないで子供だけで遊ばせるのが一番という結論があるようだ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 今の子供達も大人数で缶けりをやったり、かくれんぼをやったりしていて、自分はそれを見て感動した。創造性に関しては、遊ぶ場所さえあれば、余り心配することはない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 「学校教育の充実」については、教育委員会の方で指導要領に基づいてしっかりやってもらい、基本構想での課題は、この3点に整理したいと思うがよろしいか。(意見なし)
渋谷会長	<p><市民文化の創造></p> <ul style="list-style-type: none"> ここに課題として4点ほど挙げられている。このような課題で良いと思うがどうだろうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 文化でも、次のスポーツでも同じことだと思うが、先ほど話があったよう

渋谷会長	<p>に交通の問題がある。教育・文化施設まで遠いし、自動車も運転もできない、バスもないから行けない。そういう高齢者の方が結構いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> このため、バス輸送の充実、もう少し運行本数を増やせないのかと思う。今は午前中に3本くらいしか運行していない。このような状況だと、いくら無料バス券があっても、施設へ行くのは難しいと思う。 個々の利用者にバスの時間に合わせて来てもらうことも必要。また、以前に事業仕分けを見ていたら、こんなに交通が発達しているのだから、市内の循環バスは止めるべきという意見があった。 関東近郊と地方では条件が違うため、一概に止めろというのは無理な話だと感じた。自分は、地域の特性により、各自治体が考えるということもやむを得ないと思うが、仕分け人は、循環バスは無駄のような発言をしていた。 交通の便がよければもっと利用したいという話が出たが、その辺りのことについて、理想はどういうものであっても良いと思うが、基本構想の中でどこまで踏み込んで入れるのかどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 現在、ライフバスが運行されているが、途中までしか来ない、市役所の方までは来ていない。もう少し相談して連携できないものだろうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> バスの運行は事業者の利害が絡むので、今、話があったような課題の解決は、なかなか難しいと思う。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> 自分も市役所のバス問題に関わった。今は法律が変わり、どのようになっているか分からないが、当時は先に民間に運行の許可を与えているのだから、その路線に行政が新たな許可を得て、参入するのは無理だとか、公共施設の循環バスは、ここには停留所を出せないとか色々な規制があった。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 循環バスを2台運行するだけで、年間2,500万円の経費がかかる。各地域のバス路線を充実させるためには、さらに経費が増える。そこをどう選択するのが課題である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 地域で行事があると、声を掛け合い、ボランティアで自動車に相乗りしたり、共通券みたいなものがあるって、送り迎えをし合ったりしている所もあるようだ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> こういうやり方もあるとか、隣近所が皆でこのように工夫しているというアイデアを、皆に知ってもらえば便利になると思う。もっと実績を積み、バスの利用率を高めるためのアイデアを出し、考えていかなければならないということを覚えていただければ良いのかなと思っている。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> 「市民文化の創造」は、交通問題まで少し踏み込んだ形になっている。行政には状況を知ってもらい、今後の行政運営の中でやっていくようにして、課題はこのような内容でよろしいか。(意見なし)
委員	<p><文化財の保全と活用></p> <ul style="list-style-type: none"> 市内には国指定の文化財や県指定が2つ、市指定が29あるが、これらに対する市の広報が少し足りないのではないかと思います。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 例えばお寺の中の碑とか、そういう個々のものは、教育委員会の方で冊子にとりまとめているが、ホームページで紹介するといったところまでは実現できていない。6月にホームページを全面的にリニューアルするので、その過程で今出た意見や季節に合った情報提供を含め、検討することになると思う。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の活用に関しては、行政が関係団体に指導を行い、積極的にやってもらうようにすることができるのではないかと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 従来は保全から、現在は活用を進めていこうということを言っているの、既にそういう方向性になっていると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 市の文化財が29点もある。これを子供達に絵に画いてもらい、展覧会を開催する。これを契機に「市内にこういう所がある」、「ここが文化財なんだ」といった関心を持ってもらうことからスタートしても良いのでは。もちろん大人が画いても良い。 市民全体に文化財を意識させるため、文化財をテーマとした展覧会を開催するのは、とても素晴らしいアイデアだと思う。現に川越市では色々なことをやっている。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> 小学校3・4年生を対象に配布されている副読本を、子供だけではなく、市民にも配ると良いかもしれない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 先日のテレビで、大学生にまちおこしをやらせようという、色々アイデアを出してもらった中で、地元の食材を活用したイベントを開催したら、「地元の野菜がこんなに美味しかったんだ」という反響があったと言っていた。こういった取組も良いのではないかと。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 市民大学は、2年後に開校35年目になる。また、市の方も40周年を迎える。それに向け、今年度から富士見に住んでいる人たちが富士見市をよく知ろうということをテーマとした富士見検定を実施するための準備作業に着手する。 今年の暮れから来春にかけて、富士見検定に参加してくれる先生方を公募し、盛り上げようと計画しているので、是非、宣伝をお願いしたい。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> 「文化財の保全と活用」に関しては、今、記載されている内容にしたいと思うが、よろしいか。(意見なし) <p><生涯スポーツ・レクリエーションの充実></p>
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> 生涯スポーツ関係については、課題が1点ほど挙げられているが、自分はこのように感じているのかと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 参加するだけでなく、体育設備の充実に関する記述も必要ではないか。市民の方々も決して今のままで満足しているとは思えない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ガーデンビーチは夏だけしか利用できないのか。オフシーズンの有効活用の検討も必要では。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> 今、話が出た通り、課題として施設の充実という言葉も入れてもらった方が良いのではないかと。参加することもやらせようが、参加される方が

委員	<p>できるだけ利用しやすいような施設整備をしていただきたいという形で。</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い市民が身近な場所で気軽にできるスポーツということで、ウォーキングをもっと勧めたら良いと思う。健康にも良いし、ウォーキングを通じて富士見市の歴史・文化を市民やその他の人達にも知ってもらえる。 「社会教育の充実」の課題に、「家庭、学校、地域、団体との連携」とあるが、地域子供教室や青少年の育成は、この中に含まれているという認識でよいのか。
事務局 委員	<ul style="list-style-type: none"> 含まれている。 5月にウォーキング大会が開催されているが、イベントとしてやろうとすると、やはり相当の予算が要る。それよりも、歩くコースを設け、所々に標識を立ててもらおうとか、あるいは地図を立てるとか、初期投資はかかるかもしれないが、自由に歩けるようにしたら良いと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> それは良いアイデアだと思う。例えば、お勧めのウォーキングコースみたいなものをつくり、場合によっては、そこに桜を植えてもらうとか。これならば余りお金はかからないし、道具も要らない。ウォーキングを市民全体の運動として広げていけば、確かに良いかもしれない。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> ウォーキングコースの指定や市民へのPRならば、わざわざ課題の中に載せなくても市の方で直ぐに出来る。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 現に駅から出るコースとか色々あるのだが、実際にそれを利用する方は少ないのではないか。これをどのように全体的に周知するのが重要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 広報が大事、また、情報を知りたい人がどこに行けば資料をもらえるのか、その点だけだと思う。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> 一括した資料提供とともに、桜の咲く時期やウォーキングコース、文化財など、個々のPRもやってもらえれば良い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 公民館を中心にしたウォーキングコースを指定し、その資料を個々の公民館に置くだけでも随分違うのではないかという気がする。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> 今出た意見に関しては、事務局の方からそれぞれの部署に連絡して欲しい。スポーツ関係に関しては、以上でよろしいか。(意見なし)
渋谷会長	<p><国際交流の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> 「国際交流の推進」に関しては、3点ほど課題が挙げられている。これからは国際交流の時代であり、行政と市民が連携をしながらやっていくしかないのかなと思う。このような表現でよいか。(意見なし) それでは「第4章 心豊かな文化を育てるまち」に関しては、これで検討を終了する。
事務局	<p>「第6章 市民と行政が共につくるまち」の内容説明</p>
渋谷会長	<p><市民自治の拡充></p> <ul style="list-style-type: none"> 「まちづくり活動に参加できる場所の提供」、「ホームページの見直し」、「広

委員	<p>聴機能の強化」、「職員資質の能力向上」などが主な議題として出ている。このような形でいかどうかを議論いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、NPOの設立等は県の指導に基づき行っていると思うが、その権限が市に移管される可能性はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今のところ、県からそのような話が出ていない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、市内にはNPOが18団体あるが、ここ数年で少しずつ数は増えてきている。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章的にはこのような表現でよろしいか。(意見なし)
渋谷会長	<p><コミュニティの推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「コミュニティの推進」は、要は地域でいかに隣近所がうまくつき合っていくかということだと思う。このことに関して、色々な意味で苦労されている方もいると思うが、実際に最近は近所付き合いが少ない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町会への加入者数は、地域によって差があると思う。市民の町会への加入促進について、行政はどのように関わっているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在は、恐らくそういうことはやっていないと思うが、地域の安心・安全は地域で守るということも踏まえ、今後は市も積極的に転入者に対するPRを行っていかなければならない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、町会が広報の配布や色々な取り次ぎなど、行政の一端を担っていかなければならないと思う。そのためにも、行政が市民に対して町会への加入を積極的にPR、あるいは勧奨してもらいたい。 ・ 町会としても、今までの地域コミュニティだけではなく、行政の一端を我々が担うという自覚を持っていかなければならないと思う。今後、市役所の職員数を減らさざるを得ない中、職員に代わり誰かが地域の行政サービスの提供役を担わなければならない。それを担っていくのが、町会、地域だと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 転入時、あなたが住む所にはこういう町会があるという案内を出来るようにすれば、大分違う。地域が何を担っているか、行政は何を担ってもらっているのかということ、住民にもっと説明してもらいたいと思う。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確かに昔から「遠くの親戚よりも近くの他人」という諺にもある通り、いかに自分の日々の暮らしの中で、周りの人が大事かということ、市民に植え付けるのは、重要な作業だと思う。 ・ 何か事が起こり、協力してやってみれば、地域が大事だということになるが、なかなか今はそういう経験もないだろう。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、町会への加入を働き掛けたり、町会がどのような役割を担っているのかを具体的に訴えるような資料は作成していない。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当課にもどのような形で、転入者に町会に加入してもらうのかをよく研究してもらった方が良いと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分は、コミュニティの大事さを身をもって体験している。特に、災害が発生した場合、コミュニティがしっかりとしている地域とそうでない地域

	<p>では、地域住民の安全確保に差がでる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯上も、昔は近所の子供を見守る人が色々いて、地域のコミュニティみたいなものがあった。地域のコミュニティが崩れると何が困るかという、やはり地域の防災・防犯機能が低下する。 ・ 市内に長く住んでいる方を見習いながら、色々な形で出来るだけ地域の活動への参加を促していく必要があるのではないか。災害が発生した時、助かるか、助からないかは、近くの人たちと日頃からどのようなつながりを持つのが重要であり、それを相当強くアピールする方法を考えるべきである。 ・ 凶悪な犯罪などが起きると、結構地域のつながりが出てくる。しかし、活動に対し強制力が働くと、皆は参加したがる。個人のプライバシー等々を抜きに当番制にして、来月はあなたの家がパトロールに出てくださいとか、そういうことをやると駄目だと思う。 ・ 強制力を働かせず、何か皆で地域の安全を保つということを先にやり、その結果、つながりが出てくるというのが、一番良い形のような感じがする。まちづくりをする上でも、まずは皆で始めてみる・地域を知ることが一番重要ではないかと思う。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コミュニティは今後ますます重要になってくると思う。課題として、地域の施設も含めて、その場所の提供など、5点ほど挙げられているが、このような形で良いか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時と防犯を少し入れてもらえると良い。災害の場や地域の防犯に関しては、コミュニティが凄く重要だということを盛り込んだ方がよい。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ そのことは事務局に検討してもらおう。
渋谷会長	<p><広域行政の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もっと広域行政を推進するためには合併も必要ということ、新しい基本構想の中では考えていかなければいけないと思うが、現状に関してはこのような課題でよいか。(意見なし)
渋谷会長	<p><計画的な総合行政の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の中に事業仕分けについてふれているが、富士見市が国に先がけ実施した事業仕分けによって、どんな効果があったのかを教えて欲しい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業仕分けは45事業を対象に実施した。もともと金額の削減ありきではなく、市の仕事を市民の皆さんの前できちんと説明し、ご理解いただくことを目的に行った。結果的に廃止4事業、見直し4事業、2,500万円強の削減が図られた。 ・ 金額的には、みずほ台の東西駅前広場にある駐車場の管理について、従来、昼は有人、夜は無人であったが、監視カメラを交換し昼も無人化することによって、最も大きく削減を図ることができた。 ・ 事業仕分け実施前も色々な見直しを進めており、削減できる場所は少な

<p>渋谷会長 事務局</p>	<p>なくなったのだが、それでもこれだけ削減できた。平成22年度は実施しないが、修正を加えながら、今後も事業仕分けに取り組んでいくという方向性でいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成22年度は、事業仕分けを実施しないのか。 事業仕分けは政策財務課が所管しているが、現在、当課は総合計画の策定や組織の改正など、非常に大きな課題を抱えているため、日程的にも実施でき無いのが実情である。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業仕分けをしたからといって、実際には即無駄の削減につながるものではないし、実際に現在の役所が、そんなに無駄なことをやっているとは思えない。
<p>委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業仕分けを通じ、職員が非常に勉強する、無駄を無くそうと努力するなど、意識が変わったのではないか。 事業仕分けに参加した市民にアンケートを実施した結果、今まで知らなかったことが分かった、初めてこういう制度があったのかということを知ることができたという回答があった。また、職員の意識も随分変わってきたと思う。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 政策財務課に業務が集約し過ぎている気がする。一極集中している方がやりやすいということは理解できるが、もう少し何かの形で分ける、分散させる方法はないものか、機構改革のところで検討する必要があるのではないか。
<p>渋谷会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 政策財務課が発足し2年経過しているが、予算編成から計画策定まで余りにも権限が集中し過ぎている。自分で計画し、自分で予算をつくっては、チェック機能が働かないということで、大分議論はしたのだが、当時は、組織の縮小を優先し、このような形になっている。もっとやりやすく、チェックしやすい組織が良いと思うが、それは今後検討してもらいたい。
<p>委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主な課題のところに「職員定数の適正化と、職員の政策形成能力の向上」云々とあるが、具体的に職員の能力向上ともっと働いてもらうための教育というのは、計画の中に入っているのか。資格の取得者数を増やすなど、具体的なことも含め、課題として取り組むべきではないか。 今出た意見のほか、職員のモチベーションをいかに上げていくかということが大事になってくると思う。
<p>渋谷会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 色々な意味で職員の資質向上を図るためには、いかに教育するかという課題があると思う。特に、政策決定能力を持った職員をどのように教育するのが重要である。 「計画的な総合行政の推進」については、後々も意見をもらうということで、本日はこのような形で終了させてもらいたい。
<p>渋谷会長</p>	<p><男女共同参画の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> 主な課題として3点ほど挙げられている。このような課題で良いのかどうか議論いただきたい。

委員	・ 自分がかつて女性の上司のもとで業務に従事していた経験があり、その時に女性の判断の速さには感銘を受けた。
委員	・ そもそも審議会等の女性委員比率を高めようということ自体、考え方がおかしいのではないか。男も女も一緒ということであれば、比率を掲げる必要はない。基本構想の中に数字を入れることに違和感がある。
渋谷会長	・ 現状の課題の中で、女性委員比率についてふれるのは良いと思うが、具体的なパーセンテージについてどのような形にするのかは、今後、事務局でも研究してもらい、後で入れても良いのかなと思う。
事務局	・ 1つの計画が終わった時、その達成状況を測る指標として掲げたものであり、初めに数字ありきではない。また、富士見市の女性委員比率は、既に30%台に達していることを踏まえ、40%以上という目標を掲げているのだと思う。
渋谷会長	・ 基本構想の中に具体的な目標数字を入れるかどうかは、事務局にも研究してもらい、後日決めたいと思う。
委員	・ 「父親の子育て参加の推進」とあるが、育児休暇を取れということの意味しているのか。
事務局	・ そういった点も含まれている。
委員	・ 自分の経験では、父親の子育て参加というと、形式的に休暇を取れば良いと思っている人がいるような気がする。そうではなく、やれることをやると、結構子供はなつく。形式にとらわれず、自主的に子育てに参加していくような雰囲気を上手くつくってもらえればと思う。
渋谷会長	<p><自治の拡充と財政基盤の確立></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最後に「自治の拡充と財政基盤の確立」について、このような課題でよろしいか。(意見なし) <p>次回は4月26日(月)午後1時30分より開催することを確認し、閉会</p>
7 会議資料	
資料1：第4次基本構想の取組み実績と今後の課題(案)【前回配布資料】	
その他資料：第5回審議会会議録	